

私のすすめるこの1冊

石川誠(社会科学科 准教授)

『イノベーションのジレンマ—技術革新が巨大企業を滅ぼすとき—』

クレイトン・クリステンセン 編

私の研究テーマの一つであるイノベーション（技術革新）についての1冊を紹介いたします。イノベーションとは主に企業の研究開発活動から生まれ、様々な製品の機能を高めるものです。身の回りにある製品、例えばパソコンを取り上げてみても分かる通り、その中身はイノベーションの集合体であり、常に進化をめざして世界中の企業がしのぎを削っているものです。そのイノベーションには、「持続的イノベーション」と「破壊的イノベーション」とがあります。本書の著者であるクレイトン・クリステンセンは、ハードディスク業界における実証研究で「持続的イノベーション」という形態を発見し理論化して本書を著しました。

ハードディスク業界ではディスクのダウンサイズが繰り返されるごとに、それまで実績のあった企業が市場から消えていったのですが、本書では実績のある優良企業はそれまでの製品を上回る性能のものをつくる「持続的イノベーション」では勝利できても、短期的には製品の性能を引き下げることになる新規参入企業の「破壊的イノベーション」でその立場を失っていく過程がダイナミックに描かれています。さらに、この「破壊的イノベーション」がハードディスク業界に特有のことではなく、様々な製品市場で起こってきたことが明らかにされていきます。例えば、掘削機、オートバイ、マイクロプロセッ

サー等であり、最近ではスカイプによるインターネット電話サービス、ユーチューブによるオンライン・ビデオ・サービス等がこれに該当します。

本書は2000年に刊行されたものですが、現在でもその本質はいささかも色あせてはいません。そして、本書を読むと、日本企業が失われた10年を経てもいまだに閉塞感に包まれ、それまで業界をリードしてきた企業が競争力を失ってきたのはどうしてなのかということを考える上で、重要な示唆を与えてくれます。本書で扱われている米国経済では、「破壊的イノベーション」によって次々と新しい企業が現れてくるという経済の強さを感じる一方で、日本ではほとんどこのような変化が生じないという日本経済の構造的なひ弱さを感じ、今後について危惧せざるを得ません。また、グローバル化が進む世界経済において、日本企業、日本経済が再び競争力を取り戻すためには何が必要なのかということを考えさせてくれます。

本書は経済や経営分野の専門書という位置付けにはなるとは思いますが、内容は非常に分かりやすく、また面白いものですので、専門書を読むといった心構えがなくても読めてしまいます。企業のイノベーションのみならず日本経済の現状といったことに興味を持たれたならば、是非本書を手にとりいただければと思います。

第15回 教科書展 暫定教科書編

終了しました!

— “折りたたみ教科書” に見る戦後教育の幕開け—

今年度は、11月5日(金)から11月25日(木)にかけて、終戦直後の「暫定教科書」にスポットを当てて開催いたしました。

期間中は、学生や教職員の方々、学外者の方々が多数来館され、戦時中の国定教科書と戦後の暫定教科書を比べたりしながら、興味深く見ておられました。

また、今年は教科書のレプリカや復刻版を用意し、手にとってご覧いただけるコーナーを設置しましたので、軍事的な描写を墨で塗りつぶした「墨塗り教科書」の復刻版を開いたり、両面印刷された暫定教科書のレプリカをひっくり返してみたりなど、眺めるだけではない展覧会の様子も見られました。



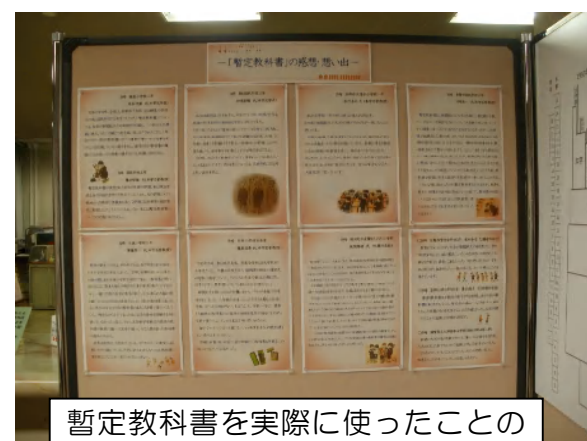
展示会場の様子



広げて展示された暫定教科書



レプリカと復刻版



暫定教科書を実際に使ったことのある方から、当時の様子を教えてください、展示しました

なお今回の展示では、本学教育学科の岡部先生をはじめ、音楽科の垣内先生、国文学科の植山先生、同学科寺田先生、理学科の中野先生、社会科学科の山下先生、数学科の渡邊先生、および本学名誉教授の皆様(順不同)に多大なるご協力をいただき、厚く感謝申し上げます。



「うたとおはなしの会」を開催します



今年も「冬」や「クリスマス」をテーマにして楽しいお話や歌、遊びを企画しています。
エプロンシアターや手遊びなど親子で一緒に楽しみましょう。

日時 : 12月12日(日) 11:00~12:00
場所 : 附属図書館2階 視聴覚室
対象 : 幼児(3~6歳くらい)と保護者
0~2歳児さんも大歓迎!
※無料です



申込方法: 保護者氏名・お子様のお名前と年齢・電話番号を明記の上、
ハガキ・FAX・電話またはE-mailにてお申し込みください。
問い合わせ先: 京都教育大学附属図書館グループ 総務担当: 下村(しもむら)
〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1番地
TEL: 075-644-8176(平日 17時まで) FAX: 075-644-8182
E-mail: tosomu@kyokyo-u.ac.jp

冬季休業に伴い、長期貸出を実施します

区分	学部学生	大学院生・教職員
貸出期間	12月11日(土) ~12月27日(月)	11月27日(土) ~12月14日(火)
貸出冊数	7冊	12冊
返却期限日	2011年1月11日(火)	

※視聴覚資料は除きます。

※長期貸出図書については、返却期限日の延長はできません。

一度返却してから、翌日以降貸出の手続きをとってください。

※一般利用者の方は長期貸出の対象外です。

~ 図書館開館スケジュール ~

2010年 12月

日	月	火	水	木	金	土
			1 休	2 ●	3 ●	4 休
5 休	6 ●	7 ●	8 ●	9 ●	10 ●	11 ▲
12 休	13 ●	14 ●	15 ●	16 ●	17 ●	18 ▲
19 休	20 ●	21 ●	22 ●	23 ●	24 ●	25 ▲
26 休	27 ▲	28 休	29 休	30 休	31 休	

2011年 1月

日	月	火	水	木	金	土
						1 休
2 休	3 休	4 休	5 ▲	6 ●	7 ●	8 ▲
9 休	10 休	11 ●	12 ●	13 ●	14 休	15 休
16 休	17 ●	18 ●	19 ●	20 ●	21 ●	22 ▲
23 休	24 ●	25 ●	26 ●	27 ●	28 ●	29 ▲
30 休	31 ●					

<カレンダーの見方>

日付	9:00~21:00
●	
日付	9:00~17:00
▲	
日付	休館日
休	

12月1日は館内整理日のため休館

12月4日は推薦入試のため休館

冬季休業のため12月27日は17時閉館、12月28日~1月4日は休館

1月14日、15日はセンター試験のため休館

第 19 旅団司令部と京都連隊区司令部の来歴

—京都教育大学内の戦争遺跡をめぐって—

武島良成 (社会科学科 准教授)

京都教育大学紀要 No. 117 p. 1-15 2010 年 9 月

本学の南門をくぐって構内に入り、右手(東側)に進むと、去年まで職員会館として使われていたレトロな建物があります。新聞や地域のガイドブックでは、陸軍の連隊司令部(あるいは連隊長室)だと説明されています。ただ、戦前の地形図を見ると、職員会館の位置には旅団司令部の記号がついており、連隊とは記されていません。本当のところどっちだったのだろうと思いつつ、それ以上には追究しませんでした。

その建物を、博物館につくりかえる計画があることを耳にしたのは、2年前のことでした。新聞発表をする必要もあるでしょうし、もともと何に使われていたものか、この機会に真剣に調べることにしました。出した結論は、第19旅団司令部だというのですが、どのような史料をどう集め、どう分析した結果なのか、興味のある人は論文を読んでみてください。

また、調べるうちに、寺内寿一元帥(米騒動の時に首相だった寺内正毅の息子で、ゴー・ストップ事件や腹切り問答にも関わっています)が、少将時代に旅団長としてこの建物に勤務していたこともわかりました。部下の回想記によれば、京都ホテルから馬で通い、遅くやってきて早く帰っていたということで、寺内らしいエピソードだと思います。当番兵のことや勤務人員、日々の様子がわかるに従って、地図記号が、血の通ったものとして感じられるようになりました。

それから、南門と旧職員会館の間の、現在の講堂(ガメラ)の位置にあったのが、京都連隊区司令部です。その部員の一部が、戦争末期に、(元)旅団司令部の建物に勤務していたようです。そのことが、「連隊司令部」という誤伝に繋がったのかもしれませんが。連隊区司令部は、徴兵・応召に関わる事務や在郷軍人の指導をしており、実戦部隊の歩兵連隊とは別物なのですが、その日々の様子も分析しました。女学生の勤労奉仕や、女子職員の存在など、意外に感じられる部分も多いと思います。

本タイトルの論文は京都教育大学紀要 117 号に掲載されています。

京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/> から閲覧可能です。

●京都教育大学附属図書館ホームページはこちらから <http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版図書館ホームページはこちらから <http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/m/mhome.htm>

下記の QR コードからもアクセスできます



京教図書館 News No. 123 (2010 年 12 月号)

発行日: 平成 22 年 12 月 1 日

編集発行: 京都教育大学附属図書館

内容に関するお問い合わせ先: library@kyokyo-u.ac.jp